

平成22年10月13日

## 鉄道記念物・準鉄道記念物の新規指定について

鉄道記念物は、歴史ある鉄道の財産を後世へ残していくために日本国有鉄道が昭和33年に制定した「鉄道記念物等保護基準規程」に基づく制度で、昭和61年10月14日までに全国で鉄道記念物35点、準鉄道記念物48点が指定されました。当社は、会社発足の昭和62年に鉄道記念物1点（旧手宮機関庫）、準鉄道記念物8点を国鉄から継承し、以降、新規指定を実施することなく経過しました。

今回、「北海道鉄道 130周年」をきっかけとして、鉄道遺産を未来へ残して行くべくこの制度を見直しして、社内に「鉄道記念物等選定委員会」を設け、毎年1回、記念物を選定することとしました。

結果、今年度については、10月14日の「鉄道の日」付で昇格3点、新規10点の指定を行うことで別紙1のとおり決定しました。

### （参考） 鉄道記念物とは

#### 「鉄道記念物」

- ・鉄道の地上施設その他の建築物、車両、古文書等で、歴史的文化的価値の高いもの
- ・鉄道の制服、作業用具、看板その他で、制度の推移を理解するために欠くことのできないもの
- ・諸施設の発祥地点、関係伝承地、鉄道の発達に貢献した故人の墓碑含む遺跡等で歴史的価値あるもの

#### 「準鉄道記念物」

- ・鉄道記念物に指定されたものと同種のもの
- ・現在歴史的価値が認められないが、将来その価値が生じ、鉄道記念物に指定するにふさわしいもの
- ・鉄道記念物に指定するに至らないが、歴史的文化的価値の高いもの

## 当社が指定する鉄道記念物

平成22年10月14日現在

NO.		指定物件名称	所在地	今回	
1	鉄道記念物	旧手宮機関庫	小樽市総合博物館	-	
2		しづか号機関車		昇格	
3		い1号客車		昇格	
4		大勝号機関車		昇格	
	準鉄道記念物	キ601号回転雪かき車			-
		キ800号かき寄せ雪かき車			-
		北海道鉄道開通起点標			-
		キ八03 1号気動車			-
		キ八82 1号気動車			新規
		E D75 501号電気機関車			新規
		クラウド15号機関車		ほろしん温泉ほたる館	新規
		排雪列車「キマロキ」編成		名寄市北国博物館前	新規
		旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群		上士幌町	新規
		小樽駅本屋		小樽市	新規
		旧室蘭駅舎	室蘭市	新規	
		北海道鉄道技術館	札幌市東区 苗穂工場内	新規	
		C 62 3号機関車		新規	
	岩見沢レールセンター（現業事務所7号）	岩見沢市	新規		
-	準	旧函館駅所在地	函館市	解除	

「旧函館駅所在地」は、昭和37年10月14日に道南地方の鉄道発祥の地として「函館市海岸町10番地」に建立され、昭和42年10月14日に準鉄道記念物に指定されましたが、平成2年7月に海岸町の宅地化に伴い、碑を現在の「函館市若松町12番」へ移設しました。

本来の所在地と異なる地に碑を設置せざるを得ない現状を受け、今回、指定を解除しました。

なお、碑については、今後も若松町において展示を継続します。



1 旧手宮機関庫 (写真は機関車庫三号と転車台)



2 しづか号



排雪列車「キマロキ」編成



3 い11号客車



4 大勝号



キ601号回転雪かき車



キ800号かき寄せ雪かき車



キハ03 1号気動車



岩見沢レールセンター



北海道鉄道開通起点標



キハ82 1号気動車



E D75 501号電気機関車



北海道鉄道技術館



小樽駅本屋



旧室蘭駅舎



C62 3号機関車

- 1 旧手宮機関庫
- 2 しづか号機関車
- 3 い11号客車
- 4 大勝号機関車
- キ601号回転雪かき車
- キ800号かき寄せ雪かき車
- 北海道鉄道開通起点標
- キハ03 1号気動車
- キハ82 1号気動車
- E D75 501号電気機関車
- (以上「小樽市総合博物館」)
- 小樽駅本屋(小樽市)



排雪列車「キマロキ」編成  
(名寄市)

クラウス15号機関車  
(沼田町)



クラウス15号機関車

旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群  
(上士幌町)



旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群

北海道鉄道技術館  
C62 3号機関車 (札幌市東区)

## 鉄道記念物の概要

鉄道記念物	1	旧手宮機関庫	<p>旧手宮鉄道施設は、明治18年竣工の現存する我が国最古の機関車庫である機関車庫三号をはじめとし、危険品庫、貯水槽、転車台、擁壁などからなっており、平成13年に重要文化財に指定されています。</p> <p>小樽市総合博物館は、国鉄が昭和38年に日本の鉄道開業90周年を記念して設置した「北海道鉄道記念館」がベースになっています。</p>
	2	しづか号機関車	<p>北海道の鉄道の始まりである幌内鉄道時代に義経、弁慶などに続き6番目に明治17年に輸入された蒸気機関車です。</p> <p>今回、鉄道記念物に昇格することで、義経（JR西日本所有）、弁慶（JR東日本所有）、しづか（JR北海道）の3車両が鉄道記念物となります。</p>
	3	い1号客車	明治25年に北海道炭礦鉄道手宮工場で製造された道産最初の一等客車です。
	4	大勝号機関車	幌内鉄道開業に際してアメリカから輸入された「義経」「弁慶」「しづか」などを模倣して明治28年に北海道炭礦鉄道手宮工場で製造された現存する最古の国産機関車です。
準鉄道記念物		キ601号回転雪かき車	大正12年製造、アメリカから輸入され日本で最初に組み立てられた回転雪かき車です。
		キ800号かき寄せ雪かき車	昭和3年製造の、日本で最初に製作されたかき寄せ式の除雪車です。
		北海道鉄道開通起点標	明治13年に北海道で最初に敷設された幌内鉄道の路線測量が行われた記念すべき地点です。
		キハ03 1号気動車	昭和31年製造の、現存する唯一の国鉄レールバスです。
		キハ82 1号気動車	昭和36年製造の、道内最初に特急型気動車で使われた形式の第1号車です。
		E D 75 501号電気機関車	昭和41年製造の、北海道最初の電気機関車です。
		クラウド15号機関車	<p>九州鉄道が創業期の明治22年に輸入したタンク式機関車の1両で、明治後期から大正にかけて国鉄で10形15号として活躍後、東京横浜電鉄を経て昭和6年に北海道留萌鉄道へ。明治昭和鉱業所（沼田町）で昭和42年まで現役で活躍後、沼田町指定文化財に指定されました。</p> <p>現存する小型蒸気機関車の中で「坊ちゃん列車」に次いで古く、動態可能としては最古の小型蒸気機関車です。クラウド26号（形式10 26号機関車）は、鉄道記念物（JR九州）に指定されています。</p>
		排雪列車「キマロキ」編成	<p>「キマロキ」とは、キ=機関車、マ=マックレー車、ロ=ロータリー車、キ=機関車の順に連結された排雪用編成列車の頭文字をとって名づけられたものです。全国で名寄にのみこの編成の状態で保存されています。</p> <p>名寄市北国博物館前の旧名寄本線線路上にて展示されています。</p>
		旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群	昭和11～30年の建造物群で、季節により糠平湖に沈むタウシュベツ川橋梁や第三音更川橋梁などが有名です。北海道遺産であると同時に、5橋梁と1トンネルが文化庁の登録有形文化財指定を受けています。
		小樽駅本屋	昭和9年建造で道内最古の鉄筋コンクリート造の駅舎であり、国の登録有形文化財として登録されています。
		旧室蘭駅舎	明治45年建造で現存する道内最古の木造建築物であり、国の登録有形文化財として登録されています。
		北海道鉄道技術館	北海道鉄道管理局札幌工場（大正4年に苗穂工場と改称）により明治43年に用品倉庫として建てられた工場最古の建造物です。現在は、北海道鉄道技術館として、鉄道に関する多くの資料を展示しています。
	C 62 3号機関車	昭和23年製造で、北海道に入った最初のC 62です。昭和51年の廃車後、小樽の北海道鉄道記念館にて保存展示されていましたが、昭和63年3月に苗穂工場で車籍を復帰し、S Lニセコ号として活躍しました。C 62 1号機関車は、準鉄道記念物（JR西日本）に指定されています。	
	岩見沢レールセンター（現業事務所7号）	明治32年頃建造の旧北海道炭礦汽船鉄道株式会社岩見沢工場。JR北海道唯一のレールセンターとして現在もレール加工品製造、レール溶接の技術開発が行われています。	